



コロナ下における校区男女共同参画協議会等の活動事例の紹介

(令和4年3月 福岡市市民局男女共同参画課)

はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大は、校区男女共同参画協議会等の活動にも大きな影響を与えました。「三密」(密集、密接、密閉)回避のための外出自粛や、公民館の利用停止などにより、講座・研修会は中止を余儀なくされ、対面での集まりも制限を受けるなど、従来どおりの活動が難しくなっています。そうした中、どのように活動を継続したらいいか悩んでいる校区も多いと聞きます。

このため、福岡市七区男女共同参画協議会が例年、市内149校区(地区)の男女共同参画推進組織に実施している「校区における男女共同参画研修会等の調査」より、令和2年度に、『校区の男女共同参画の推進に貢献した事業』として回答があった活動の中から、[中央区]当仁校区、[城南区]金山校区、ならびに[西区]西都校区の活動事例を紹介することとしました。

特に、コロナ下における活動の好事例に着目しました。いずれの校区も、校区の実情を踏まえ、工夫を凝らし、男女共同参画の理解に向けた住民に対する積極的な働きかけを進めています。今後の皆様の活動のヒントとしてご活用いただければ幸いです。

なお、事例についてお問い合わせ等ありましたら、市民局男女共同参画課(Tel406-7510)までご連絡ください。校区へおつなぎします。

基本目標 あらゆる意思決定過程に男女が共に参画する
多様性に富んだ社会

5 市の審議会等委員、市役所の管理職などの女性比率が一層高まり、市の政策・方針決定過程に男女が共に参画するとともに、地域においては、諸団体の長への女性の就任が進み、男女共同参画の視点をもって、身近な暮らしの場での地域課題の解決に取り組むことにより、様々な立場を考慮した政策などの立案・実施が可能になる社会を目指します。

主な取組

市の政策・方針決定過程への女性の参画促進

- 審議会等委員への女性の参画促進
- 「福岡市特定事業主行動計画」に基づく市の女性職員の活躍推進や、働きやすい職場環境づくりの推進

地域活動の方針決定過程への女性の参画促進

- 地域活動における事業の企画・立案や男女共同参画に関する研修などの支援
- 地域で活動する女性を対象とした学習の機会を提供



(「福岡市男女共同参画基本計画(第4次)」より抜粋)

事例Ⅰ 「男女共同参画に関する校区アンケート」〔中央区〕当仁校区男女共同参画推進委員会

キーワード:「校区の人たちの考えを知りたい」「若い世代を巻き込みたい」

校区プロフィール:当仁校区は西の菰(こも)川、南は大濠公園、北は西公園と、水と緑に恵まれた都会のオアシスである。江戸時代に福岡藩の城下町として栄え、由緒ある多くの寺や西学問跡、八兵衛地蔵など、当時をしのぶ旧跡のほか、400年の歴史を持つという唐人町商店街もある。(中央区校区データ集より抜粋)

■当仁校区の人口 15,188人 世帯数 8,833世帯 (「住民基本台帳」令和3年12月末現在)

活動のきっかけ:

- 例年通り校区文化祭が開催されることになった ※令和2年11月3日に当仁小学校運動場で実施。
- これまで文化祭では、かしわごはんや豚汁などを提供する食バザーを担当していたが・・・
 - ・委員も高齢化してきているし、若い人たちは忙しい。「食バザーは大変」との声も。
 - ・校区の人たちが男女共同参画のことをどれくらい知っているか、知りたい。
- 自治協議会会長の賛同を得て、文化祭での食バザーを取りやめ、アンケートをとることに決定。

活動の内容:

- 文化祭には300人以上の住民が集まった。これまで食バザー用に割り当てられていたブースで、小学生から高齢者まで100人の住民にアンケートを行った。
- 結果を校区住民に知ってもらおうと、分かりやすくグラフ化、「男女協だより」に載せることにした。
- 手に取って読んでもらえるよう、これまでの「回覧」を改め、「全戸配付」とした。

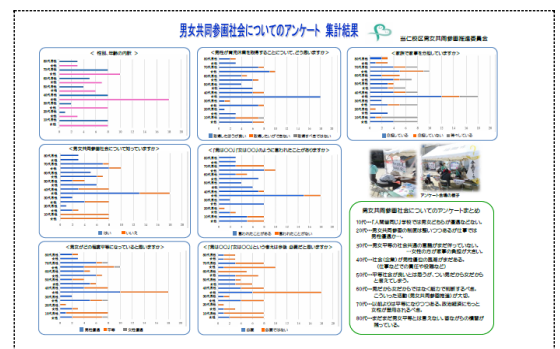


(アンケート会場の様子)

会長の一言:

アンケートには、「自分も妻のために家のことをしないといけない」と答えた高齢の男性もいて、統計では分からない、校区の人たちの男女共同参画に対する意識を知ることができてよかったです。

平成29年4月に組織名が「女性の会」から「男女共同参画推進委員会」となり、少しずつ若い人たちも入ってきています。これからは若い男性にも入ってもらいたいと、学校を巻き込んでいろいろ企画しているところです。



↑ アンケートの集計結果をグラフ化

事例 2 「みんなでカルタ&さんぽ」 [城南区]金山校区男女共同参画協議会

キーワード:「三密にならない活動」「自宅にこもりがちな住民に外出の機会を」

校区プロフィール: 金山と呼ばれた小高い丘の自然環境に恵まれた緑豊かな丘陵地帯を中心に広がっており、校区の中心にある小学校の校舎からは、金山の町並みや油山が一望できます。住みよい環境のもと、閑静な住宅街である友丘や松山の町内と地形をうまく取りいれて建設された金山団地で校区が形成されています。(城南区校区データ集より抜粋)

■金山校区の人口 7,277 人 世帯数 4,060 世帯 (「住民基本台帳」令和 3 年 12 月末現在)

活動のきっかけ:

- 「三密にならない活動」を企画しよう!
- せっかくだから「男女共同参画カルタ」を周知したい → 「みんなでカルタ&さんぽ」(参画ウィークの活動として実施)
- 自宅にこもりがちだから「外に出る」企画にしたい、など。

活動の内容:

- 各町にある 14 カ所の掲示板にカルタのポスターを掲示し、町内を散歩しながら、カルタのキーワード(例:「ありがとう夫婦の仲でも忘れずに」のキーワードは「ありがとう」)を申込券に記入して応募してもらい、抽選で参加者に参加賞を渡す。
- 参加者数:45 人 (参考)令和 3 年度は 50 人以上

みんなでカルタ&さんぽ



キーワード「言ってみよう」

キーワードと必要事項を金山校区男女協だより「にじ」第 28 号の申込券に記入して、金山公民館の応募箱に投函してください。



(町内の掲示板)

工夫したこと:

- カルタを各町の掲示板に掲示(掲示板の場所を周知できる。公民館前にも掲示板がある)。
- ゴールを公民館入口に設置(立会いが不要で感染リスクがない。災害時避難場所の公民館を周知できる)。
- 「自治協だより」や「男女協だより」で広報。自治協の常任委員会で自治協会長からも案内してもらう。
- 申込券となる「男女協だより」をイベントの時期に合わせて発行(例年 3 月発行を 9 月に前倒し)。
- 参加賞の抽選は、公平を期するため自治協会長に依頼。
- 参加賞をクオカード(2年度)から棚田米 500g(3年度)に見直し。

参加者の感想:

- 男女共同参画カルタを初めて知った。カルタだとわかりやすい。
- 「なるほど」と納得するカルタがあった。
- ポスターを見ながら散歩して、校区を再発見できた。



(参加賞の棚田米)

事例3 「相談カードの作成・配付」 ([西区]西都校区自治協議会 男女共同参画部会)

キーワード:「コロナ下だからこそできることがある」

校区プロフィール:福岡市が市西部地域の拠点として着手した伊都土地区画整理事業で平成17年、JR 九大学研都市駅が開業、九州大学の伊都キャンパス移転が始まり、平成 30年10月に移転が完了しました。天神まで25分弱で行ける利便性や西部地域交流センター(さいとぴあ)など公共施設の整備が進み、かつての田んぼは、高層マンションが建ち並ぶ街に変貌。若い子育て世代や大学生が多く住む地域となり、小学校や公民館もオープンしました。(西区校区データ集より抜粋)

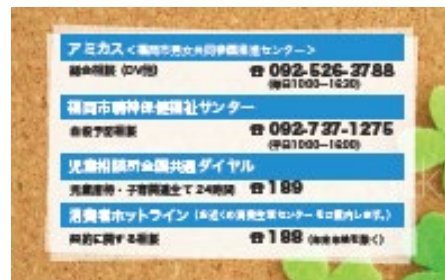
■西都校区の人口 10,845 人 世帯数 4,784 世帯 (「住民基本台帳」令和3年12月末現在)

活動のきっかけ:

- コロナで活動が自粛となり、予定した研修ができなくなった。が、何らかの形で活動したい
- コロナ下で悩みを抱えている人たちに相談できる窓口があることを伝えたい

活動の内容:

- 市内にある相談窓口の中から、役員会でいくつか候補を選定。カードへの掲載について、各相談窓口に直接連絡・交渉。
- 最終的に、アミカス、福岡市精神保健福祉センター、児童相談所全国共通ダイヤル、消費者ホットラインの4か所の電話番号の掲載が決定。
- サイズは、どこにでも持ち歩けるよう名刺サイズ。人目につかない大きさであることも重要と考えた。
- デザインは、委員の娘さんをお願いし、印刷はネット印刷で格安に。
- 1,000枚を印刷し、校区内の大型商業施設、地域交流センター、病院などに配架をお願い。カードを置くケースも100円ショップで買って用意した。
- 「男女共同参画部会」の活動への理解につながるよう、カードに部会の名前を入れた。



活動の背景:

- 「男女共同参画部会」は自治協議会のどの活動にも関わっていくことができる。例えば、「防災」。災害時の避難所における、女性に対する暴力・性被害などの二次被害を防ぎたい、と男女共同参画部会で防災ホイッスルを1,000個作った。当初、校区の防災訓練で配布しようと考えていたが、コロナにより中止となったため、現在は公民館に防災備品として置いている。